

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502194		
法人名	医療法人 幸晴会 中谷クリニック		
事業所名	こうせい苑グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府八尾市北木の本5-6-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年10月31日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502194-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和5年10月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じて頂けるようホール内は毎月季節の飾りつけをしています。自立支援を目指し出来ることをして頂き、今の状態を継続できるよう日々色々と考えています。広いペランダがあり季節ごとの行事に利用したり、利用者様の気分転換等外気浴を気軽にできる環境です。1階での外気浴にも積極的に降り、1対1でのコミュニケーションにも力を入れています。訪看とはどんな些細な事でも相談できる関係で、医師・家族に繋ぎ早期対応が出来、安全安心に生活して頂いています。風通しの良い職場でありたい、何でも話せ働きやすい職場だと皆が思えるように、主任・リーダーと共に力を注いでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に貢献する医療法人が、利用者の声に応え開設したグループホームです。「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』」の理念を職員は共有し、利用者一人ひとりの生活リズムを尊重し認知症症状の維持緩和を図り、利用者本位のサービスを実践しています。長い年数を感じさせない清潔なホーム内には、いたるところに職員のアイデアあふれる飾りつけや掲示物を見ることができ、季節感も感じられる温かい雰囲気を作っています。母体の医療法人との連携も、利用者・家族の大きな信頼と安心感に繋がっています。長いコロナ禍で「改めて家族の力の大切さを学んだ」というホーム長の思いは現場に浸透し、日々のケアで表現しています。ホームでの看取りも行い、職員は「ここで看取らせてくれて、ありがとう」と思えるようになっていきます。チームワークのよい職場環境は、職員の定着に繋がっています。「うちの自慢はホーム長です」と職員が口を揃えているように、利用者・家族・職員から安心と信頼を得たホーム長を中心に、職員一丸となって利用者の暮らしを支える、ほのほとした雰囲気に満ちたグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・事業所理念を事務所・玄関・ホール・名札等に掲示し、会議などでも話し合い、理解し実践につなげられるようにしている。	「目配り・気配り・心配りの『個別・自立支援』、優しく・親切・丁寧で『その人らしさを尊重』、地域と和合して『安全・安心』の理念を職員は共有し実践しています。理念は、日常的に確認できるように事務所に掲示しています。ホーム長は、日々のケアの中で理念の実践を具体的に伝え、事務所での業務中に聞こえてくる利用者や職員の会話等からも確かな理念の実践を感じることができています。	ホームでは、さまざまな研修に積極的に参加しています。その研修で得た知識や見識を職員皆で学び合い共有し、更に深い理念の理解と、その実践に繋がることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナがあり地域の行事参加やボランティアの方・地元の保育園児との交流等は行えていないが、日常の散歩・コンビニでの買い物・公園等には行けるようになり、近隣の方とは利用者様も挨拶しておられます。	理念の中に、「地域と和合して『安全・安心』」を掲げ、地域との連携は積極的に取り組んできましたが、コロナ禍で地域との交流は中止の状況です。日常の散歩や買い物時などでは、地域の方たちと挨拶を交わす間柄が続いています。ホーム長は、コロナが落ち着いたら、ボランティアの方たちや保育園児の来訪を願っています。コミュニティセンターでのグループホーム展には毎年出展し、利用者も観に出掛けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管内のグループホーム展はコロナ禍でも毎年行われ、作品や写真の展示を通し入居者様の様子を伝える事で理解して頂けるよう努めている。又、法人の日向ぼっこ通信や苑の季刊誌などでも発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面での報告のみをしていたが、今年4月より対面での会議を再開した。まだ短時間での開催としている為、包括職員・民生委員・利用者からのみの参加としているが、徐々に参加者も増やしていきたい。一方的な報告だけではなく、外部の貴重な意見を聞く場として学びの時間になっている。	利用者・家族・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。コロナの状況を見ながら書面での報告等行ってきましたが、現在は対面での会議が再開できています。書面報告の際には、利用者の暮らしぶりがわかる写真を添えて送り、感想を聞いてきました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは常に連絡相談できる関係にある。コロナの集団発生時も連絡を取り合い、知恵を頂き、心丈夫に乗り切ることができた。	市の担当者とは、困ったことがあれば相談できる関係を築いています。特にコロナ発生時の保健所の指導・助言・励ましに、ホーム長は深く感謝し、より厚い信頼を置くことができました。 ホーム長は市内のグループホーム分科会の監事を務めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な身体拘束の会議の他にもあらゆる会議の中で議題に上げ、勉強会等も実施し、身体拘束の具体的な行為を正しく理解し、日々の介護の中で感じた事を話し合い、利用者の安全・安心に心掛けている。	身体拘束排除宣言を玄関に掲示しています。身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、具体的な身体拘束行為の復習を行い、スピーチロックについては毎回話し合いや勉強会を行っています。ヒヤリハットの発信も積極的に行い、事故を未然に防ぐために活かしています。毎年、身体拘束ゼロ推進員養成研修に参加しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修での学び、それについての共有、日々行っている介護に行き過ぎはないか、職員同士で介護について常に確認の目と声を掛けるようにし虐待のないケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者様がおられた。制度については理解しているが、まだまだ勉強不足で理解できていない部分もあるので、制度を必要とされる方に対応出来るよう今後も学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に不安や気持ちを十分お聞きし、丁寧に説明を行い、疑問に対しご理解いただけるまで説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会簿に意見を記入して頂く欄を設け、意見箱も設置している。伝言を書いてくださる家族様もおられ、その言葉に励まされることもある。外部評価での家族アンケート等も家族様の思いを聞ける機会となっており、共有し反映できるよう努めている。	現在、家族の面会は居室で行っています。これまではコロナの状況を見ながら、玄関のガラス越しでの面会でした。LINE(コミュニケーションアプリ)や「ふれあい新聞」・居室担当職員からの近況報告等で利用者の暮らしぶりを伝えています。今年は、家族に事前に送ったメッセージカードにひと言書いてもらって、利用者の写真と一緒にフロアに掲示しています。長いコロナ禍で「改めて家族の力の大切さを学んだ」というホーム長の思いは現場に浸透し、「家族に代わって利用者を支える重大な仕事をしている」ことを職員は常に意識しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やワーカー会議等は個々の職員の意見を聞き話し合える場となっている。「話しやすい環境・関係を作ってくれている」「意見を出しやすい環境」「どんな小さな事でも報告している」などの言葉があった。希望要望には対応を心掛けている。	毎月のワーカー会議で意見を出し合い、サービスの向上に繋げています。職員の意見が出しやすく自主性が尊重されるホーム内には、いたるところに職員のアイデアを見ることができます。ホーム長・職員それぞれがお互いの仕事に敬意を払い感謝しあうチームワークのよい職場環境は、職員の定着に繋がっています。経験年数の長い職員が多い中、新人職員からの新しい気づきも真摯に受け入れる職場風土です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回セルフチェック・面談を行い、職員の意見・思いを聞いている。日々の仕事の間にも意見を言える職場環境である。管理者は代表者に伝え職場環境がより良くなるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度の内部研修は久しぶりに対面で再開された。苑では毎月担当者がテーマを見つけ勉強会を行っている。又、資格取得に向けての受験対策講座なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護事業者連絡協議会に所属し、同業種との交流や研修の場を持っている。それに属するグループホーム分科会でも勉強会に参加し、今年度は施設見学会も再開される予定です。意見交換を通しサービスの質向上に生かされるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時が一番本人が不安な状態です。入居前の情報・生活歴・本人像の情報を把握共有し、本人の状態をしっかり見て何が必要か、何を求めているか、気づきを全員で記録、その時は本人の言葉をそのまま記録に残し本人の意向を出来る限り実現していけるよう皆で考えます。そして本人との信頼関係作りを第一に支援することに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は、入居して良かったのだろうかと不安や罪悪感を感じる方もおられます。家族の要望や思いに耳を傾け、苑で出来る事、家族にしか出来ない事など話す機会を出来るだけ多く持ち、機会があるごとにご本人の様子や近況など伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が何を必要とされているか、本人の状態を見極める事から始め、実践を行いながら、他サービスの提案も含めた支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に家事や作業や作品作りを行う中で生活を一緒におこなっていく関係を築いている。何より安心できる笑いのある一日を過ごせるような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに家族様に連絡し、家族様との絆を大切に、家族様のご助力もいただきながら、共に支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が完全に終息したわけではなく、友人等の訪問はまだない状態ですが、家族だけでなく親戚の方も来られるようになっていいる。手紙やカード・家族写真等を部屋に飾るなどしてその思いが感じられるように努めている。	介護計画書に「長年馴れ親しんだ生活や好み」の項目があり、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所等を職員間で共有しケアにあたっています。法事のために外出する利用者もいます。看取り期の利用者の部屋には、本人の習字や生け花の写真が飾られています。フロアに出られない利用者の誕生会の際は、他の利用者全員が居室の前に行き、ハッピーバースデーの歌を歌って祝う等、利用者同志の温かい馴染みの関係もできています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの個性や状態を把握し、利用者同士が快適に過ごせるよう、又自由に自席以外にも移動し色々な方とつながりが持てるよう職員が見守り配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ前は命日に訪問されていた家族様がおられ、現在はそこからお手紙が届き、近況を伝え合っている。近くにお住いの家族様にお会いすると声を掛け合える関係である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の日頃の言動を記録し、関わりの中から思いや要望を汲み取り、職員間で共有して家族様の協力も得ながら寄り添えるよう努めている。	日々の関わりや家族との話して、利用者の意向の把握に努めています。ホーム長は「気づく事や想像する事」の大切さを職員に伝えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの本人像の情報や、入居時のサマリー等から生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で一人ひとりの心身状態を把握し、職員間で情報共有し、現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスは本人と接する中で職員の意見や思いや気づきを記入し、安心安全でより良い生活を送って頂けるよう話し合い、又家族様や看護師にも意見を聞き介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。定期的な見直しと、状態に変化があった場合は随時見直しています。カンファレンス用紙に職員一人ひとりが書き込むようになっており、それをもとにサービス担当者会議を行っています。家族の意見や要望は、面会時に聞いています。計画作成担当者は、「利用者・家族に安心してもらえる介護計画」を心がけ、作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実施記録は簡略化も行いつつ個別記録に記入し、連絡帳に気づき等を記入、看護師からの指示はNS指示ノートに記入し職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。ヒヤリハットノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況や状態が変わり見直しが必要な時は、必要なことに対応出来るよう柔軟に他サービスとも連携し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の行事の参加は中止が続き残念。しかしグループホーム展は毎年続き作品を出展し見学にも行っている。少しずつ苑独自で公園や図書館等の外出援助を再開し始めている。苑での生活以外の楽しみを感じて頂けるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族本人の希望で従来のかかりつけ医を続けていくことも可能で、法人主治医の診察も定期と臨時で実施されている。本人の状態により必要であれば他科の受診や往診もして頂いている。	法人主治医の定期往診は月2回の予定ですが体調の変化がある時は臨時で往診が受けられます。訪問看護の看護師が毎日来院し、利用者の体調を確認しています。職員も利用者への気づきを気軽に相談することができることで心強いです。医療系ホームの強みが活かされた対応には、家族からも安心と感謝の声が届かれています。歯科は毎金曜日に往診があり、眼科や皮膚科も電話で往診依頼ができます。入所前のかかりつけ医の受診も支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に個々の利用者の状態の共有、少しの変化も報告相談している。どんな小さな事でも相談できる関係性であり、医師に繋げて利用者への早期対応になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護・介護サマリーを提供し、安心して治療できるよう努め、病院関係者とも密に情報交換し関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にその時の家族の意向を確認し、その後も折を見ての相談・話し合いを行い、再度の意向確認を行っている。又、終末期や重度化した場合に出来る事の十分な説明を行い、出来る事への理解を頂けるよう努め、最期をどのように迎えるかをしっかりと共有できている。	入居時説明で看取りについてのホームの考え方を説明しています。家族は重度化や看取りの状態の判断について理解した上で、同意書に署名をしています。家族へ伝えるタイミングの難しさを感じながら、利用者の終末期の状況を受け入れることができるように、細やかな説明を行い、家族の心情に寄り添えるよう心がけます。悔いが残らないよう面会時間や回数・人数にも柔軟に対応し、大事な時間を過ごせるように家族支援を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応に戸惑わないよう各所に緊急時の対応マニュアルを掲示し、急変や事故対応に備えている。又、研修会や勉強会を定期的に行い、訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路の確認や火災・地震・水害訓練も定期的に行ない、懐中電灯や備蓄品等の把握もしている。現在車椅子使用の方や歩行不安定の方も多く夜間の対応は不安があります。今後も訓練を積み重ねていきたい。	元消防署員の職員の指導の下、通報訓練、初期消火訓練、避難訓練等実施しています。5月には、併設のディサービスと一緒に消防署立ち会いによる合同訓練を行いました。避難経路の確認や布団を使い安全にベランダまで移動、避難する方法など実践しています。備蓄品も賞味期限をわかりやすく事務所に掲示し、水は多めに準備し日用品も整理して蓄えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人・事業所の理念を大切とし、利用者様を人生の先輩として敬う事を基本とし、その人その人の性格や状態を把握した言葉かけに努めている。	耳が聞こえにくい人も多いため、排泄の誘導時も「散歩に行きましょう」など周囲に聞こえても安心な声掛けを心がけています。個々のコミュニティを大切にし、職員の業務に合わせるのではなく、利用者の気持ちを優先したケアを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や思いをゆっくりと言えるような働きかけや声掛けに努め、本人の思いを汲み取り、安心して発言できる関係作りを常に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、利用者様の体調やペースを把握し、一人ひとりの気持ちを大切に、楽しく過ごして頂けるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にし、自分で選べる方には任せて選んで頂き、出来ない方は家族にその方の好みの物を持ってきて頂き、本人の好む服装や身だしなみが出来るようにしている。季節やその日の気温には注意して声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ以降一緒に食事することは出来ないが、準備・片付けは一緒に行っており、自ら手伝って下さる時もある。食器洗いや食器拭きをして頂いたあとに大好きなコーヒーを飲み達成感を味わっておられる方もいます。	主菜・副菜はセントラルキッチン(外部の調理施設)を利用し、米飯と汁物はユニットで用意しています。月1回の企画料理では、日本全国の郷土料理は制覇したので、次は外国の料理の提供を考えています。敬老の日やお正月は幕の内にする事で特別感や豪華さも楽しんでいます。お好み焼きは、「丸いお好み焼きを食べたい」との声があがり、四角に切り分けて出さず、ユニットでひとり分ずつ焼いて食べました。食事アンケートの結果は感想と一緒にセントラルキッチンに伝えてあります。おやつはコンビニで購入することもあり、利用者の楽しみの一つにもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	セントラルキッチンにより提供されている食事は栄養バランスが考えられている。食べられる量はそれぞれに違い、無理なく完食出来るよう調整している。水分量も把握し少ない方には好みに合わせて色々な種類の飲み物を提供し一日の水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全介助の方もおられますが、自己にて出来る方には行ってもらい、不十分で汚れが残ってしまう方には介助を行っています。それでも不十分な場合や治療が必要な場合は訪問歯科にてクリーニングや治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で各々の排泄パターンを把握し、自己にて行けない方にも可能な限りトイレで排泄して頂くことを援助している。	排泄の声掛けには「トイレ」でなく「散歩」と呼びかけ、排便の報告も「排便OK」でなく「快調」「△」と表現するなど、利用者の羞恥心に配慮し、排泄の機会を逃さない工夫をしています。日中はリハビリパンツ使用ですが、夜間は安眠を優先しおむつを使用しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理なく水分を摂って頂けるようこまめな水分提供、毎日のラジオ体操等の運動や歩行、朝食にヨーグルトの提供、又腸に良い飲み物等を家族様に持って来て頂いたりし、自然な排便を目指しているが、難しい面もあり、それぞれに適した便薬の調整を医師・看護師との相談のもと行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お湯の熱さ等好みがあり、又長く入りたい方、さっと入りたい方等それぞれの方の好みを把握し、入る順番等の声掛けは本人の希望に合わせて入浴を楽しめるように心掛けている。	入浴を好まない利用者は、別の話をしながら浴室階に行き、その後、お風呂に誘導することもあります。脱衣所に来て気持ちが変わった際も、利用者の意思を尊重して無理強いすることなく居室に戻ることもあります。ふけ用シャンプーやコンディショナーなど好みの物の使用もでき、同性介助の希望にも対応しています。利用者にゆっくり湯船につかってもらいたいと工夫を凝らす職員もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況で日中臥床の時間を設けている方もおられます。又その日の状況に応じて居室で休息して頂く場合もありますが、夜間の安眠に繋がるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが利用者様の既往歴を理解し、個々の薬情報をファイルに綴じて理解に努めている。難しい時はネットで調べたり薬剤師に聞いたりもしている。服薬後の状態を観察し、変化について医師や看護師への報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに出来ることが異なるが、出来るだけその方が楽しめるよう、家族からの聞き取りや職員それぞれが感じるその方の喜び事について意見を出し合い、楽しみごとを見つけ穏やかに過ごして頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	少コロナも落ち着き、以前よりは外出も出来るようになった。家族と法事に出掛けたり、通院ついでに家族と夕食を食べたりする方もおられる。苑では感染対策を行いながら初詣や花見を実施したり、近くの神社や公園に出掛け人々と触れ合うことが出来るよう支援を行っている。	職員は外気や季節を感じてほしいと願っています。風が穏やかな日はテラスで食事をすることもあります。テラスには利用者が植えた挿し木の鉢も置いて水やりなどをして成長を待っています。今年は、テラスでお月見もできました。コミュニティセンターに行く途中、園庭で遊ぶ園児の様子を見たり、図書館で紙芝居や本を借りることもありました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	押し車にお金を入れている方、鞆に財布を入れて持ち歩く方もおられます。その方が持つ事で安心できるなら持って頂き、持つ事での不安が生じないよう配慮している。買い物での支払いもその方が希望するなら出来るよう支援したいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの電話に出て頂いたり、お誕生日や母の日等にお祝いカードが届くとお渡しし、一緒に喜びを分けて頂いている。暑中見舞いを書いて頂き家族様に送ったりもしています。自宅に居る時と同じように携帯電話で家族とやりとりしている方もおられます。LINEで動画を送ったりし様子を見て頂いたりもしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常の様子や家族との写真の掲示、季節を感じて頂けるような壁飾りや、玄関に季節の花を飾り、利用者様や来苑された方が心地よく過ごせる工夫をしている。夜間ドアの隙間の光が気になり眠れない訴えがあり、安心してもらえるように工夫したりもしている。	ユニットの玄関には淡い色のお花があり、共用の壁には利用者の作品を飾るなど職員の工夫が随所に見られます。たくさんの写真は、テーマ毎にまとめられ、訪問した家族に日常の様子がよく分かり、楽しめるように掲示しています。共用場所からの眺めはゆったりとした広がりを見せ、開放感があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの居場所、気の合う方々との席の配置も考え、ソファ一席も配置し、自由に居心地よく過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方に使い慣れた馴染みの物を持ってきて頂き、本人が安心できるような居室作りをしている。整理整頓し、壁には家族様と一緒に撮った写真等を貼っている。	居室の入り口には家族からのメッセージや自身の写真が飾られ、部屋の目印になっています。居室内は明るく、ベッドに横臥した時の視界には利用者を見守るように家族写真が貼られています。使い慣れ、時が刻まれた思い出のチェストを置く利用者もおり、それぞれに「唯一の部屋」になっています。備え付けの壁側のロッカーも広く、荷物の整理がしやすくなっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前に本人の写真を飾ったり、トイレの場所が分かるような表示や、車椅子や押し車で自由に動けるような動線の確保に努め、安全に生活できるよう努めている。		